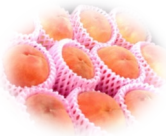
桃の共選所統合による販売単価の向上

笛吹農協（山梨県）

有利販売　施設の集約

取組のポイント

○　共選所の老朽化や利用者の減少等の課題を抱える中、将来の持続可能な産地維持に向け、**組合員と徹底した対話**を通じて、**効果的な施設再編**を実現。



課題

・４つの共選所・機械の老朽化　・共選所利用者の確保・産地維持
・共選所統合に向けた組合員の意識醸成　・糖度センサーの導入　等

成果

１．新たなブランド化に成功　２．組合員の選果労力が軽減（規模拡大にも寄与）
３．実需への対応力が向上　４．施設の利用率向上

1　取組の内容

- 全国有数の桃の産地である一宮西地区の４つの共選所（昭和50年代後半設立）は**施設・機械が老朽化**。他産地では糖度センサーの設置により高価格販売を実現しており、一宮西地区は高付加価値商品等の**供給体制の面で遅れ**をとっていた。
- 系統外出荷及び販売自力出荷等を選択する組合員も発生。共選所利用者の減少により、**人的資源及び運営費用等のコストパフォーマンスが悪化**。
- そのため、他の共選所の統合・整備事例を参考とし、**統合による利点を導入し効果的な施設再編となるよう**、**組合員と対話を重ね**、平成28年に一宮西地区の共選所を統合。

＜苦労した点＞　組合員の理解・意識醸成

・糖度センサーの導入により、本当に**高価格販売**が可能なのか？
・施設への投資もあり、**費用過多**になるのでは？

慣れた共選所から**場所が変わる、遠くなる、出荷方法が変更**になる等、様々なことが**不安**だ。

＜工夫した点＞　シミュレーションを用いて分かりやすく説明

組合員の不安等に向き合い、シミュレーションを提示し組合員と徹底した対話

⇒　費用対効果をデータで説明。施設統合・設備導入のメリットの理解が得られた。

ポイント：説明に用いる販売・費用負担のシミュレーションに必要な各種分析

ex.糖度センサー導入産地の価格分析、他施設の統合・設備投資による効果分析、施設の収支分析、償却費負担、雇用人件費負担、共選所運営ランニングコストの算出と説明

（農協職員がしっかり説明することで、組合員の不安が解消！）

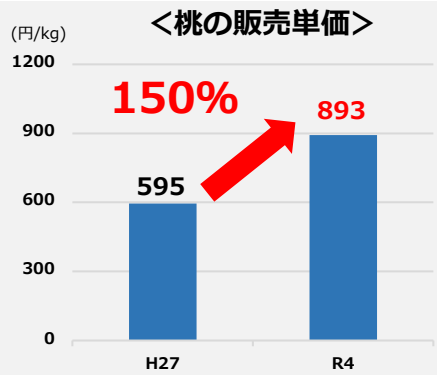
2　取組の成果

成果１　ブランド化により販売単価が向上！

・　糖度センサーの導入により糖度別の選果が可能となったため、**糖度13度以上の桃**を**「一宮プレミアム」ブランド**として**販売**。

・　さらに、農協職員の発案で、**組合員の生産意欲向上を目的**に、「プレミアム」の中でも**特に糖度が高く品質が良い桃**を**「匠の桃」**として、最上級の等級を設定し、**新たなブランド・販売戦略に発展**。

➡ **Ｒ４販売単価の向上　150%（H27実績比）**



成果２　組合員の労力軽減！生産拡大意欲に寄与！

・　共選作業（荷下ろし、桃の仕分け等）を作業員の雇用により行う体制を構築。

・　**販売価格の大幅な上昇**と、統合による合理的な共選所運営により**費用効率は改善**され、組合員の**手取り総額**は、設備投資による経費負担増を十分に補えるまで**増加**。

組合員はトラックから降りることなく搬入・選別（ドライブスルー方式）

「一宮プレミアム」

糖度センサー

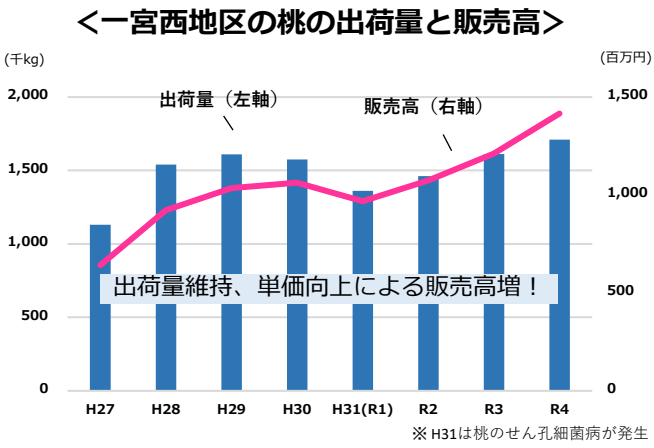
高糖度で最上級の「匠の桃」

成果３　統合によるロットの確保！実需への対応力アップ！

・　共選所統合により**地区内の桃が一施設に集約・統一基準で選果**され、**等級別・個数別にそれぞれロットを確保**でき、量販店等の**実需からの多様なニーズへの対応が可能**に。

・　東南アジアの富裕層をターゲットに、**海外輸出への供給体制も強化**。

・　全国的に生産量が減少する中で、一宮西地区の取扱量は増加していることから、国内外の実需者から、**供給能力の信頼性が評価**され、**継続的で安定的な優位な取引が可能**に。



※ H31は桃のせん孔細菌病が発生

成果４　口コミの広がりにより農協の利用率が復活！

・　共選所活用メリット等が評判を呼び、**一旦離れた組合員**や**新型コロナで苦戦していた観光農園**も利用を開始し、**利用者及び取扱量（出荷量）**が**増加**。

・　農家所得の拡大により、農家世帯の**若年層への継承**や**新規就農者**が**増加**。また、一宮西地区は、**遊休農地もほぼ無く**、当初の目的でもある**持続可能な産地形成**が実現し、**地域コミュニティの活性化**にも寄与している。

（参考）地域の特徴

笛吹市は山梨県のほぼ中央に位置し、昼夜の寒暖差を活かした、モモ、ブドウ、スモモの栽培が盛ん。笛吹市を含む峡東地域の果樹農業が、令和４年７月に世界農業遺産に認定。